

「目線」の意味・用法

— 15年後の変化 —

外国語学部 日本語学科 中道 知子

Semantic Change of Japanese Word “MESEN”

Tomoko NAKAMICHI

1 はじめに

筆者は、中道知子（2000）において「視線」と「目線」の語義分析を行ない、2語の用法の検証の結果として、次のように論じた。

- 1 国語辞書における「目線」の意味記述は、この語の実際の使用実態を反映していない。すなわち、国語辞典のほとんどにおいては、「目線」と「視線」の違いは文体的特徴などの位相における違いであり実質的な語義の差はないと記述しているが、それは用法の実態からみて正しくない。
- 2 「視線」と「目線」の2語が意識的に使い分けられている例がある。このことは、上記1に述べた「目線」には「視線」とは異なる独自の意味が語義の中心的特徴として備わっている、と解釈する裏づけである。
- 3 「視線」にも「目線」にもそれぞれ独自のコロケーション上の特徴がある。
- 4 「視線」の意味として、〈視覚対象を、目からの物理的・心理的な動きが向かう対象としてとらえる〉、「目線」の意味として、〈対象に対する物理的・心理的な目の位置を高低という観点から問題にする〉、と分析した。

本稿では、上記の分析結果を踏まえて、約15年後の現在におけるこの2語の意味・用法の姿を改めて観察・分析し、上記結果を検証してみた。

2 国語辞典における「目線」の記述の変化

この約15年間の記述の変化はまことに大きい。

2-1 まず中道(2000)で取り上げた辞書で、その後の改訂があった辞書について、現行の最新版の記述との比較を見る。

A 『新明解国語辞典』：中道(2000)では第2版と4版。

第2版(1974年)「視線」の意味の俗語的表現

第4版(1991年)〔舞台・映画撮影などで〕演技者やモデルなどの目の向いている方向・位置・角度など。〔俗に「視線」の意味でも用いられるが、「目線」は目の動きに応じて顔も動かす点異なる〕

第7版(2012年)①〔舞台・映画撮影などで〕演技者やモデルなどの目の向いている方向・位置・角度など。〔俗に「視線」の意味でも用いられるが、「目線」は目の動きに応じて顔も動かす点異なる〕「一が合う／一をはずす」②もの見方やとらえ方・「上から〔=相手を立場が下だととらえて見下したような〕一／子供の一で見る」

第7版では②の意味が独立して追加されている。

『岩波国語辞典』：中道(2000)では第3版と5版。

第3版(1979年)項目なし

第5版(1994年)目の見る方向。視線。②映画・演劇会で使われて広まった語。

第7版(2009年)①映画・演劇界で「視線」を言ったのが一般化した語。▽「主婦の一で描いたドラマ」「客の一で品を並べる」など、…の目の付け方、…としての見方・立場の意味にも転用する。②(省略)¹

第7版では、中道(2000)で述べた意味・用法が、語義の転用法として扱われている。

『大辞林』：中道(2000)では初版。

初版(1988年)映画・演劇・テレビなどで、視線。

第3版(2006年)①俗に、映画・演劇・テレビなどで、視線。②その人の、物の見方や考え方。「消費者の一に立って見直す」

第3版では、②が追加されている。

『広辞苑』：中道(2000)では第2版と4版。

第2版(1979年)項目なし。

第4版(1991年)映画・演劇・テレビなどで、視線。

¹ 「視線」との類義が問題にならない意味であるための引用を省略した。

第6版(2008年)①〔映画・演劇・テレビ界の語〕視線。見る方向。②物事を見る方向や位置。「同じ—で考える」

第6版では、②が追加されている。

『日本国語大辞典』：中道(2000)では初版。

初版(1972-1976年)視線のことを、映画・演劇などの世界でいう。

第2版(2000-2002年)(1)映画・演劇などで、演技者が目を向ける方向。〔現代楽屋ことば〔1978〕〕*楽屋のことば〔1986〕〈戸板康二〉目線「役者が演技中に、月を見あげたり、山を眺めたりする時の、目のつけどころを『目線(メセン)』という。視線とはいわない」

(2)転じて、一般に視線をいう。「目線が合う」

第2版においても、〈ある立場からの見方、視点〉と言うような意味の記述がない。「視線」との違いを述べていない点で、他の辞書とは異なる。

『三省堂国語辞典』：中道(2000)では扱わなかった。

第5版(2003年)①〔演劇・テレビなどで〕視線。「—が合う・—をはずす」②(省略²)③〔その人の〕ものの見方、とらえ方。「幼児の—で見る」

第7版(2014年)①〔もと、演劇・テレビ用語〕視線。「—が合う・—をはずす・カメラ—〔=カメラの方を向いた目〕」②その立場からの見方。視点「幼児の—で見る・国民の—に立った政治」③目の高さ。「歩きタバコの火が子どもの—にある」④(省略)³

第5版の記述は、同年代の他の辞書と同じ程度だが、第7版では②と③を区別しているところが他より精密である。

『明鏡国語辞典』

初版(2002年)①映画・演劇などで、演技として行われる、目の方向や位置。「—をもう少し下げてみよう」②物事を見る場合の、目の占める方向や位置。「犯人と同じ—で物を見ている」③〔俗〕視線。「—をそらす」「背後に—を感じる」

第2版(2013年)も同じ記述である。

² 脚注1と同じ。

³ 脚注1と同じ。

3 「視線」にも「目線」にもそれぞれ独自のコロケーション上の特徴がある。

コロケーションの検証には、「聞蔵Ⅱビジュアル」⁴とNINJAL-LWP for BCCWJ⁵(以下、NLB)を使用した。

3-1 「目線」は「誰々と同じで」「誰々の一で」「誰々と同じに立って」「誰々の一に立って」というコロケーションが、「視線」に比べると圧倒的に多い。

朝日新聞記事を2000年～2014年にわたって検索すると、下記のような姿が見える。

表1 「誰々と同じで」「誰々の一で」「誰々と同じに立って」「誰々の一に立って」

	視線	目線
～と同じで	29例	422例
～の一で	429例	2656例
～と同じに立って	4例	40例
～の一に立って	18例	292例

⁴ 朝日新聞社が提供する新聞記事データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」による。

⁵ NINJAL-LWP for BCCWJ(以下、NLB)は、国立国語研究所(以下、国語研)が構築した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ)を検索するために、国語研とLago言語研究所が共同開発したオンライン検索システム

3-2 「視線」は、「目線」に比べると動詞のコロケーションが多様である。

表2 「視線」を+動詞、「目線」を+動詞

視線を...		19		目線を...		4					
視線				目線				LD差			
コロケーション	頻度	MI	LD	コロケーション	頻度	MI	LD				
視線を戻す	144	10.58	9.49							9.49	
視線を注ぐ	45	18.27	9.15							9.15	
視線を投げる	83	10.22	8.95							8.95	
視線を浴びる	43	9.55	8.14							8.14	
視線をむける	23	10.56	7.86							7.86	
視線を据える	24	10.08	7.8							7.8	
視線を受け止める	27	8.96	7.51							7.51	
視線をそらせる	14	12.22	7.4							7.4	
視線を交わす	17	8.75	7.03							7.03	
視線を遮る	13	9.01	6.87							6.87	
視線を這う	13	8.85	6.82							6.82	
視線を感じる	121	7.6	7.1	目線を感じる	1	5.18	0.31			6.79	
視線を転じる	12	8.46	6.61							6.61	
視線をかかわす	10	8.89	6.56							6.56	
視線をいる	146	10.72	9.58	目線をいる	1	8.02	3.12			6.46	
視線を集める	23	7.27	6.41							6.41	
視線を当てる	11	7.07	5.9							5.9	
視線を向ける	298	10.64	9.87	目線を向ける	6	9.5	4.63			5.24	
視線を落とす	161	10.25	9.33	目線を落とす	3	9	4.11			5.22	

頻度

LD差

出現位置

1 page / 1

3-3 「視線」は、「目線」に比べると感情や感覚を表す表現とのコロケーションが多い。

3-3-1 形容詞基本形+「視線」、形容詞基本形+「目線」

頻度2以上、LD差±2以上で整理すると、「視線」が14語の形容詞と共起するのに対して、「目線」は6語であるというように、「視線」には形容表現のコロケーションの多様性がある。また、その中に、「熱い視線、冷たい視線、厳しい視線、鋭い視線」といった感情や感覚を表す表現がたいへん多い。

表3 形容詞基本形+「視線」、形容詞基本形+「目線」

形容詞基本形+視線 11				形容詞基本形+目線 3				LD差
視線				目線				
コロケーション	頻度	MI	LD	コロケーション	頻度	MI	LD	
鋭い視線	67	13.53	9.66					9.66
熱い視線	45	12.36	8.53					8.53
いたずらっぽい視線	3	12.75	7.8					7.8
粘っこい視線	2	14.09	7.77					7.77
険しい視線	5	11.62	7.44					7.44
熱っぽい視線	2	12.22	7.24					7.24
暖かい視線	3	9.26	5.36					5.36
冷たい視線	41	12.07	8.25	冷たい目線	1	10.51	2.97	5.28
強い視線	15	7.92	4.17					4.17
厳しい視線	18	9.87	6.09	厳しい目線	1	9.49	1.96	4.13
痛い視線	3	7.35	3.57					3.57
				遠い目線	2	10.88	3.35	-3.35

頻度

LD差

出現位置

1 page / 1

3-3-2 形容動詞語幹+な+「視線」、形容動詞語幹+な+「目線」

頻度2以上、LD差±3以上で整理すると、「視線」が16語の形容詞と共に起るのに対して、「目線」は0語であるというように、ここでも、「視線」には形容表現コロケーションの多様性があり、またその表現すべてが感情や感覚を表す表現である。

表4 形容動詞語幹+な+「視線」、形容動詞語幹+な+「目線」

形容動詞語幹+な+視線 16				形容動詞語幹+な+目線 0				LD差
視線				目線				
コロケーション	頻度	MI	LD	コロケーション	頻度	MI	LD	
冷やかな視線	19	15.43	10.29					10.29
虚ろな視線	14	15.3	10.07					10.07
不敏な視線	5	15.96	9.72					9.72
真っ直ぐな視線	8	13.91	8.83					8.83
冷徹な視線	2	14.11	8.19					8.19
獰猛な視線	2	13.66	7.98					7.98
露骨な視線	3	12.95	7.76					7.76
邪悪な視線	2	12.42	7.21					7.21
怪訝な視線	2	12.28	7.11					7.11
不快な視線	5	11.67	6.82					6.82
親密な視線	2	11.65	6.62					6.62
異様な視線	2	10.91	6					6
冷静な視線	4	10.8	5.99					5.99
穏やかな視線	4	10.63	5.82					5.82
曖昧な視線	2	9.86	5.05					5.05
嫌な視線	5	8.79	4.05					4.05

頻度
 LD差
 出現位置

1 page / 1

4 結論

中道(2000)では、「視線」の意味として〈視覚対象を、目からの物理的・心理的な動きが向かう対象としてとらえる〉、「目線」の意味として〈対象に対する物理的・心理的な目の位置を高低という観点から問題にする〉と分析した。

この基本的意味は現時点でも当てはまると思うが、15年を経た現在、「目線」は日常的な語としての地位を確立したことがわかる。すなわち、かつては、もともとは演劇やテレビ界の用語だったものが一般社会でも用いられて「視線」とほぼ同義であると言われていた。実際には、「視線」とは別の独自の意味で用いられていたのであるが、2000年時点では少なくとも国語辞書にはまだそのことが認知されていなかった。しかし、15年を経た今日、本稿でみたとおり、国語辞典では「目線」の意味については「視線」とは異なる内容が記述され、またデータベース上の比較においては、中道(2000)で発見したコロケーション上の特徴がよりはっきり見て取れる。

一般的に、ある語が存在するところに他の位相語で類義である語が加わった場合、2語の意味の違いをより明確にする方向への力が働く。「視線」と「目線」の2語も、一般社会で「視線」という一般的な語が存在するところに、「目線」というよく似た意味の語が加わった場合という実際例の姿を見せているものであると思う。

参考文献

中道知子(2000)「『視線』と『目線』」『意味と文法の風景—国広哲弥教授古希記念論文集—』ひつじ書房

(2015年9月29日受理)